

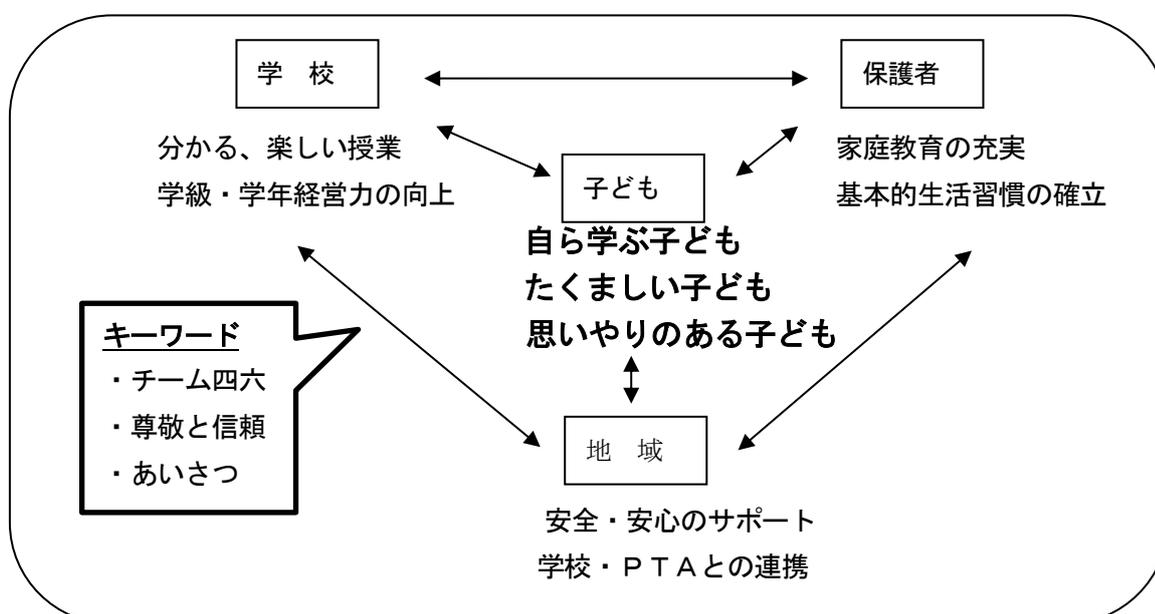
## キャッチフレーズ (合言葉)

### 「笑顔が集まる よ・つ・ろ・く」

変化が大きく、予測困難な社会の情勢の中で、「生きる力」を確実に育てていくことが求められている。そのために、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

また、子供たちが笑顔で通える学校が、保護者、地域が信頼し、誇りに思える学校である。子供たちの笑顔のために、学校・保護者・地域が協力し合い、学校に集まる大人も笑顔で子供たちを支え合う学校を目指す。

### 子供を中心にした「笑顔が集まる学校」



#### 1 育てたい児童像

- (1) 学習習慣が身についている児童（自ら学ぶ子ども）
- (2) 自ら課題を見つけ、意欲的に解決しようとする児童（自ら学ぶ子ども）
- (3) 目標に向かって、あきらめず何度でも挑戦できる児童（たくましい子ども）
- (4) 健康な心と体を作ろうと努力する児童（たくましい子ども）
- (5) 自他を尊重し、善悪の判断がしっかりできる児童（思いやりのある子ども）
- (6) 積極的に地域や町の人々と関わり、共生の意識をもてる児童（思いやりのある子ども）

#### 2 目指す学校像

- (1) 児童にとって『明日も行きたくなる学校』
  - 分かる授業
  - 心通わせる友達
  - 自分を理解してくれる先生

- ・ 体験的な活動を通して、自ら課題を設定し、解決する主体的な学習が進められる学校。
- ・ ICT を活用した、分かりやすい授業を実践する学校。
- ・ 分かる喜び、発見の喜びが味わえる学校
- ・ 地域の自然や文化、施設を活用した多様な学習を進める学校
- ・ いじめがなく、不登校0の学校。
- ・ 良好な人間関係、言語環境の中で児童同士が高めあうことができる学校
- ・ 何でも相談できる先生がいる学校
- ・ 明るく元気な先生がいる学校

(2) 保護者にとって『信頼できる学校』

- 基礎・基本の確実な定着
- 人権教育の徹底
- 開かれた相談しやすい組織
- 社会生活に必要な規範意識の確立
- 外部評価による適切な学校評価
- ・ 児童一人一人の学ぶ意欲の向上と確かな学力を保証できる学校
- ・ 個を大切にしている学校
- ・ 児童が心身ともに健康で過ごせる学校
- ・ 学校の様子がわかり、やっていることが分かりやすい学校
- ・ 適切な外部評価により自己改善できる学校
- ・ 疑問や悩みにすぐ対応してくれる学校

(3) 教職員にとって『働きがいのある学校』

- 自己の資質の向上と授業改善の実現ができる環境
- 尊敬と信頼に支えられた人間関係
- お互いに認め合い、高め合う職場
- ・ 研修の場と時間が保障され、自己を高められる学校
- ・ 担任ひとりではなく、チームとして児童にかかわれる学校
- ・ 教職員が目的を共有し、その目的に向かって互いに努力し、意見の言える学校
- ・ 専門職・公務員としての自覚と協働体制に裏付けされた自信に溢れた教職員の姿が見える学校
- ・ 児童との充実した時間を確保できる学校

(4) 地域にとって『誇れる学校』

- 四谷地区の地域協働学校として、学校と地域の協働体制の発展
- 地域の諸行事や活動への参加と交流、地域の教育力の活用
- ・ 四谷地区の子供たちを四谷小、花園小、四谷中と連携して見守る学校
- ・ 地域や関係諸団体との確かな連携が深められる学校
- ・ 笑顔であいさつを交わすことができる学校
- ・ 情報の共有化を行い、保護者や地域から信頼を得ることのできる学校
- ・ 体力向上や健康の保持増進を目指して、たくましい体と強い心を育むことのできる学校
- ・ 地域や学校のことが大好きな子供が育つ学校

## 今年度の目標と方策

平成30年4月1日 校長 児玉 純

1. 指導内容や指導方法の工夫・改善（授業の質を高める。）
  - ①新学習指導要領の理解
  - ②主体的・対話的で深い学びができる授業の工夫
  - ③指導計画を整え、意図的・計画的に実施される授業。（週案の提出）
  - ④学力調査の活用（全国・東京都・新宿区の結果の分析・検証）
  - ⑤O J Tによる研修体制の確立
  
2. 外国語活動の充実
  - ①区の教育課題研究校として、意欲的に研修・研究を実施する。
  - ②誰でも指導ができる外国語活動の実践
  - ③コミュニケーションスキルを向上させるための環境づくり
  - ④年間指導計画の確実な実施と検証
  
3. いじめ0・不登校0
  - ①スクールカウンセラー・関連機関との連携
  - ②スクールカウンセラーによる5年生・6年生全員面接
  - ③hyper-QUの活用
  - ④相談活動の充実
  - ⑤子供の様子に気づく感性と情報収集能力の向上
  - ⑥「学校と家庭の連絡板」やふれあい月間アンケートの活用
  
4. 「まなびの教室」の充実
  - ①通常学級担任との情報交換と相互理解
  - ②特別支援教育に対する研修と法理解
  - ③全保護者、児童への啓発活動
  
5. オリンピック・パラリンピック教育の推進
  - ①様々なスポーツの体験とスポーツマンシップの育成
  - ②外国文化への理解（ともだちプロジェクト）と推進
  - ③ボランティア精神の涵養
  - ④日本人としての自覚と誇り（日本の伝統や文化を学ぶ）
  
6. 児童の体力向上と健康増進
  - ①体育の授業の改善
  - ②スポーツギネスの取り組み
  - ③近隣スポーツ関連施設の活用
  - ④体力向上のための環境整備

7. 地域協働学校としての活動の発展

- ① 四谷地区4校の連携
- ② 保護者や地域の人材を教育活動への積極的な活用する。
- ③ 芝生を中心とした地域・保護者との連携。
- ④ 地域行事等への教職員の参加
- ⑤ 学校情報の提供（学校のホームページ・学校だより・学年・学級だより等）

8. 「チームよつろく」としての自覚

- ① 自己の研究・研修による個の能力の向上
- ② 現状にとどまらない、新たなチャレンジ
- ③ お互いにカバーし合える職員連携
- ④ 事件にしない事故対応（報連相の徹底・素早い対応）
- ⑤ 「聞く」姿勢、認めほめる指導（児童・保護者・地域・同僚）
- ⑥ Face to face の関係づくり（保護者・地域）

9. 体罰等服務事故0の学校

- ① 服務事故防止研修の実施
- ② 「服務事故は絶対起こさない。」という自覚
- ③ 服務規律の徹底

10. 幼稚園・保育園との交流教育

- ① 四谷第六幼稚園との交流活動の充実
- ② 近隣保育園、子ども園、幼稚園との交流
- ③ 定期的な情報交換（保幼子小連絡協議会）